

▶ 「公園に犬を入れないでください」はどうなったか

2010年1月を中心に、「公園の犬」問題を取り上げていました。
機械的に「公園に犬を入れないでください」と掲示をだすのは無責任である、と品川区を相手にクレームしていた件が決着したのです。

▶ 石原都知事辞職、何を期待しますか

石原都知事は、1年半、機を見ていての出動です。このブログでも、何度か石原都知事のことは書いてきました。
今後どれだけの実績が挙げられるのでしょうかね。高齢者としては、応援したいところです。

▶ サムスンが進展しているのは人事制度のおかげ？

サムスンの人事におられた方が書いた内部からの報告本です。
サムスンの進展は、人事制度を時代に合わせて大きく変えてきたことの貢献も大きいと言うのですが、大きく変えられるのはトップの判断です。
やはり、トップダウン経営が、この時代の発展の鍵だという上野の主張です。

▶ 日本ではなぜ、ビジネスインフラを整備しないのか？

「サムスン」に誘発されたテーマです。
日本の経営の弱点を突きました。
これも長い目では日本企業の敗因になりそうです。

▶ 首都高速の建て替えから何を学ぶ？

首都高速道路の建て替え問題が浮上していません。
先のことを考えないで、堀川の上に建てた高速道路の更新は東京にとって、非常に大きな影響のあるテーマです。
今度は先のことを考えて作りなさい、という主張です。
情報システムについても同じことが言えるという解説を後半にしています。

▶ おかげさまで「上野則男のメルマガ」は50号を迎えました！！

4年間の実績を振り返ってみました。
社会・人間・技術に関するテーマがダントツでした。
ご覧いただければ幸甚です。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- キャンペーンをしていた「公園と犬問題」の決着をお知らせする。
- ねばれば結果が出ることの一例を知っていただく。
- 品川区や日本が頑張っている例を知っていただく。

ねらい：

- 私が「刺されずに」決着したことで一安心していただく。
- 筋を通すことに熱意を持っていただく。
- 世の中を良くすることに対して行動していただく。

このブログの2009年11月から10年4月まで3回に亘り、キャンペーン？を張っていた「公園に犬を入れないでください」問題は、この度、その一部が見事に決着していることが判明しました。

経緯はこういうことです。

私のジョギングコースである戸越公園で4か所ある入り口に「この公園に犬を入れないでください」と看板が出ているのに、平気で犬を入れている人が多い。
注意すると開き直っている人もいます。

私も、この公園に犬を入れることは、首輪を離さない
糞尿の始末をする
ことであれば、何ら問題ないと思う。

問題視したのはこういうことからです。

入れてはいけないとなっている所に入れている人がいることを子供たちが知ったらどう思うのか、「お母さん、いけないとなっているのに犬を入れている人がいるよ。いいの？」と聞かれたらどう答えるのか。

「いいのよ」と答えたら子どもはどう思うだろうか、「ダメとなっていることでもやっていいんだ」と思うようになったら、社会は維持できなくなるではないか。

そこで品川区長のご意見箱に概略以下の投書をしました。「ダメと言うなら、そうなるように取り締まってほしい。しかし、戸越公園などは入れても何ら問題はない。入れない理由は他の公園利用者に迷惑をかけるということだろう。」

だったら、

公園内では以下を守ってください。

- 首輪を離さない
- 糞尿の始末をする

とすればよいではないか。

子供の教育上是非対応してほしい」

その後、品川区役所の公園管理課に押し掛けたり、大田区のある公園では、まさに上掲のような掲示を出していたので、そのことを知らせたりとしました。

我が家の前に大きな防災広場ができた折（2011年4月）に挨拶に見えた濱野健品川区長に直訴もしました。

そうしたらそのことを知っているのかいないのか定かではありませんでしたが、「それはもう少し待ってください」という返事でした。

いい加減な対応だな、と書いていたら、この度、パーフェクトな対応が判明しました。

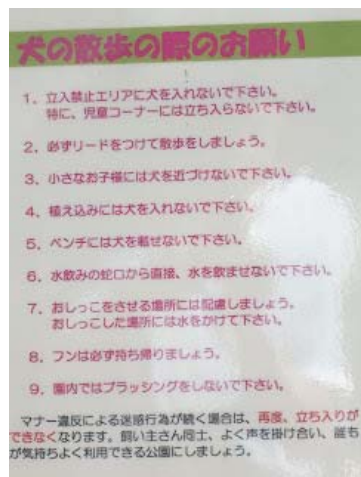
入り口に以下の掲示がされました。

犬を入れてよい場所とダメな場所の分けをしたのです。児童遊園とかあづまやとか運動をする広場は禁止で、一番のオープンスペースはOKとしたのです。これなら愛犬家も問題ないでしょう。

■全体案内図 立ち入り禁止区域の図が示されています。



■案内の文言



■裏門での表示



■立ち入り禁止表示



■モデルは孫娘 井藤佳奈実



芸が細かすぎる、手間のかけ過ぎではないか、という気もしますが、日本人の細やかさが感じられるこれは凄いという対応です。

品川区と濱野区長は頑張ってますね。関係者の皆さま、ご苦労様でした。日本も捨てたものではないです。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 石原都知事退職に際していろいろ考えていただく。
- どういう考え方が日本の正道なのかを考えていただく。

ねらい：

- 日本がもっと国際社会に対して発信できる国になってほしい。

石原都知事が10月25日、辞職を表明されました。

「やはりそうか」という感じを持たれた方も多いでしょう。私もその一人です。

私はこのブログで、2011年3月「石原都知事4選不出馬一日本のために一肌脱ぐ」という予想記事を書きました。

その根拠は、東京マラソンの前のフジテレビの15分間のインタビュー番組でした。

このときの石原さんの真意は「石原都知事4選不出馬一日本のために一肌脱ぐ」だったと思います。

しかしその後の状況判断から、衆議院解散が近くはない、したがって国政に出るチャンスは、今はない」ということで、知事を継続してチャンスをうかがっていたのでしょう。

私は態度を曖昧にしている結局4選されたときに5月のブログで「石原さんは、晩節を汚すことになったと思います」と書きました。

態度曖昧の結果で迷惑を受けた方も、松沢神奈川県前知事など、おられたのですから。

今は絶好のタイミングになったのです。「日本のために一肌脱ぐ」を実現されようということです。

筋を通すだけでなく、「機を見るに敏」で結構現実的な方ですね。

ところで、この石原知事辞職の報に対する市民の声がマスコミに拾われていました。

こういう意見がありました。「五輪の誘致を自ら言い出して招致活動に大金を費やしてきたのにー」「任期を半分以上残しての辞任は無責任」

これらの意見は、正論っぽい意見、建前論です。こういう意見は日本人の批判的な立場の意見として受けそうですが、大局観に欠けています。

この際の大局観とは、石原さんのすべき、あるいは石原さんでないといけない

日本のためになることは何か、そのためにそれよりも重要度の下がることは捨てる、ということです。

アンケート調査をすると、このような部分を見る大局観のない意見が主流になりやすいのです。

それだから、と言って政治が動いてはいけません。

「脱原発」もその傾向があります。

それはさておき、石原さんに批判的な人は、次のような失敗をあげつらっています。

新銀行東京は1000億円の損失を発生させた。

築地市場移転は停滞している。

五輪招致は失敗した。

新銀行東京は、中小企業を助けよう、中小企業を日本の力にしようということから始めたものです。

その目的・ねらいは間違っていないと思います。まずかったのは、その銀行のトップです。（石原さんにも当然任命責任はあります）

銀行ビジネスの分からないいい加減なトップだったために無茶苦茶な融資拡大戦略をとったのです。

当社も「借りませんか」と持ちかけられ審査なしの無担保で1千万円追加融資を受けました。当社としては「先のために借りておこう」で結果的には助かりました。

私どもは支払い猶予はお願いしましたが、踏み倒しはしていません。したがって、新銀行東京に損害は与えていません。

他の2項目（築地市場移転、五輪招致）も方向としては正しいでしょう！！正しい方向に対して努力することが大事なのではないでしょうか！

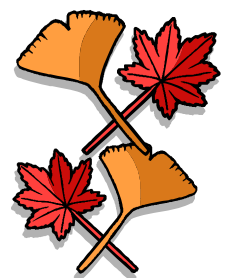
私は石原さんに外交面、日本の防衛力強化（軍備増強とは限りません）面での活躍を期待いたします。

この面での石原さんの意見を、強硬派、保守派、右翼系とか言いますが、間違っています。

日本のことをまじめに考える正統派なのです。

それを、保守とか右翼というのは、戦後の間違った左翼思想（日教組系）あるいは「脱愛国主義」を中心に据えて見るからそうなるので、基準が間違っています。

次の都知事は、猪瀬副知事も悪くないようですが、前回落選したワタミの渡邊美樹さんに、東京都を運営していただければ良いと思います。



【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 「サムスンの目覚ましい発展の要因として人事制度もある」という主張を知っていただく。
- 発展の主要因は、やはりトップのリーダーシップであることを再確認していただく。
- 日本では、トップのリーダーシップがシステム面で発揮されていないのはなぜなのかの問題提起を確認いただく。

ねらい：

- この続きを「日本ではなぜ、ビジネスインフラを整備しないのか」で読んでいただく。



竹島で韓国ともめています、「サムスンの戦略人事」(李炳夏・新宅純二郎著)を読んでみました。

サムスンが発展しているのは、巷に言われるトップのリーダーシップ、即決即断だけの結果ではない、という主張です。

サムスンでは、経営トップのリーダーシップ発揮と並行して実力主義・成果主義の人事制度を導入し、これが社内の活性化に大いに貢献している、というのです。こういうことが紹介されていました。

サムスン電子の人事戦略は大きく次の3世代に区分される。

第1世代 1969-87年 創業から安定成長期
年功ベースの能力主義の時代
施策：定年制度導入、昇進・昇格分離、職級段階の拡大
日本の成長期と同じ施策です。

第2世代 1987-97年 労使危機・社会不安期
従業員家族主義の時代
施策：福利厚生制度の拡充、
生涯職場の理念に基づく新人事制度

社会では労使危機の時代に、家族主義を強化して問題解決しています。

第3世代 1997-現在 経済危機を契機に転換期
コア人材中心の成果主義時代
施策：年俸制、利益配分制、評価制度改善、職級段階縮小
日本でも実現を目指しましたが挫折企業の多い制度ですが、サムスンでは有効に機能しているようです。

たしかに時代の変化に合わせて、的確に制度を変更してきています。

しかし、企業の発展を実現するのは、やはりトップのリーダーシップが主要因でしょう。

このサムスンの人事制度に魂とスピードを与えたのは、トップの才覚であると思われます。

この技術革新の速い時代、企業が発展するには迅速な意思決定が勝負です。意思決定が遅れている日本の電器大企業が惨憺たる目に遭っているのではないですか。

以下の日本の急成長企業とトップは、ご承知のとおりです。(敬称略です)

ユニクロ (ファストリ)	柳井 正
ソフトバンク	孫 正義
日本電産	永守重信
ワタミ	渡邊美樹
ヤマダ電機	山田 昇
少し前	
京セラ	稲盛和夫
カシオ	樫尾一族
セコム	飯田 亮
だいぶ前	
ソニー	盛田昭夫 井深 大
ダイエー	中内 功
松下電産	松下幸之助
自治体でもそうでしょう！	
大阪府・大阪市	橋下 徹
大企業でも、	
リーダーシップのあるトップが采配を揮われた時には業績が向上または回復しています。	
松下電器	中村邦夫
富士通	黒川博昭
菱食	廣田 正
イオン	岡田元也

「ワンマン型の優秀なトップはいらない」というようなことを説いている経営戦略本がありましたが、その考えは時代遅れです。

右肩上がりの高度成長時代には、優れたトップがいなくても多くの企業は成長できたでしょうが、今は違います。

経営トップのリーダーシップ頼みでなくて伸びている会社は商社でしょう。その謎はこうして解けます。

商社の仕組みは基本的には個人商店の集合です。ひとりひとりが分担して責任領域を任されています。そうして結果は正當に評価されます。

そうなれば、優秀な社員が集まっていますし、好きでこの世界に入っている人達ですから、皆さん頑張ります。

現在は資源開発が稼ぎにつながっていますので、組織力のようにも見えますが、基本体質は同じです。

組織の力は、信用と管理・事務の後方部隊で発揮されています。この支えの基に個人が頑張っているのです。

トップのリーダーシップが必要なのは、事業面だけではありません。事業を支える仕組み・システムの面でもリーダーシップが必要です。

その面のリーダーシップがなくて重大事故を招いた例がみずほ銀行です。3行が一緒になった時に、システムを統合しないと問題が起きると指摘されていたのに、その決定を先送りしたのです。

逆に銀行業界でシステム統合を成功させたのは、三菱東京UFJ銀行の畔柳信雄頭取でした。

畔柳氏は、情報システム部門の経験、システム担当役員の経験もある方でした。畔柳氏の決断でシステム統合の方針が決まり、実現したのです。

畔柳氏は例外的で、日本では、広い意味のシステム面に理解のある経営トップがほとんどおられないようです。

なぜでしょうか。この続きは別項「日本ではなぜ、ビジネスインフラを整備しないのか」をご覧ください。

306 日本ではなぜ、ビジネスインフラを整備しないのか？
No.50 2012年11月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- ビジネスインフラとは何かを再確認していただく。
- 日本でこれまでビジネスインフラが整備されなかった理由を確認していただく。
- ビジネスインフラ整備の必要性を確認していただく。

ねらい：

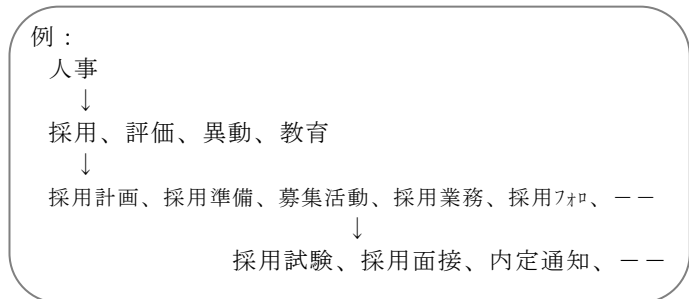
- ビジネスインフラの整備に注力・尽力していただく。
- それを日本の産業の強化につなげていただく。

ここで言うビジネスインフラとは、広い意味のシステムの基盤になる仕組みのことを指します。

広い意味のシステム面とは、情報システムだけでなく、仕事をするための仕組み（手続き、業務の実施方法、等）全般を含みます。

その仕組みとして、多くの方にとってなじみがあまりないでしょうが、ビジネスプロセスマネジメント（BPM）とデータマネジメントのことをお話したいと思います。

BPMは、各部門の業務を、統一的な共通基準に従って構造的に整理をして



それぞれの業務を定義します。その上で、それぞれの業務のハコに対して、権限の規定

をしたり、必要なマニュアル類を参照できるようにしたり、業務への投入工数実績の把握、問題点の把握を行ったりします。

これがあると、人事異動が容易になり、改善すべき業務の抽出も可能となります。仕事の組み換え、組織変更などの際の有効な検討材料にもなります。

この仕組みは、業務を的確・効率的に実施するには必須の道具立てと思われるでしょうか？

ところが、日本で名の通っている韓国の大手企業の多くが、この仕組みを取り入れているというのに、日本で本格的に取り組んでいるのは、日産自動車だけなのだそうです。おそらくゴーン社長の指示なのでしょう。

なぜ、日本ではこの取り組み例が少ないのでしょうか。このような仕組みは、経営や業務のインフラです。インフラが整備されていなければ、仕事はできないはずですよ。

ところが日本では、このような明示的な仕組みがなくてもあるいは明確なマニュアルがなくても、仕事ができます。しまいます。

そういう点から、このような仕組みは必須ではなく、「なぜ必要か」という議論の対象となってしまいます。

この必要性を経営者に明確に説くことのできる「システム」担当はいないでしょう。効果の金額計算はできませんからね。

そうすると、直感的にものごとの判断のできるトップがいないとこの仕組みの整備は行われないということになります。

データマネジメントの仕組みの整備も同様なことが言えます。

データマネジメントとは、簡単に言えば、業務で必要となる情報の基となるデータを統一的・整合的な手法で見える化する仕組みです。（詳細は省略させていただきます）

業務は、その内容により重要度が異なりますが、ビジネスプロセスとデータの縦横軸で遂行されるのです。この縦横軸が業務を実施するためのインフラ条件、すなわちビジネスインフラです。

なぜ、日本では仕組み・システムに強い経営トップがいないのでしょうか。と、問いかけて自分で分かりました。

日本では仕組み・システム依存度が低い仕事のやり方をしていますから、仕組み・システムに強くない人が経営者になれるのです。

したがって、仕組み・システムに関しては、トップ得意の「読み」が利きません。

ですから、私の昔のボス吉原賢治社長が素晴らしいBPMの仕組みを開発して、日本企業に勧めているのですが、さっぱり動きがないようです。データマネジメントの整備は、わが兄弟会社の(株)データ

総研が普及に取り組んでいます、今いち全国的な盛り上がりには欠けるようです。

このようなビジネスインフラが、日本で普及しない理由は先ほど述べました。

しかし、これから先も、「明示的な仕組みがなくても、あるいは、明確なマニュアルがなくても、仕事ができるしまう」状況が続くでしょうか。

おそらく、No でしょう。

なぜなら、以下の二つの理由です。

1. ビジネスが急速に変化し、その対応で業務もどんどん変化する。
2. これからの世代人は、「あうんの呼吸」が通じない思考法となってくる。

したがって、早晩、ビジネスインフラ整備は、先端企業から始まります。

皆様の企業が、その先端企業になられたらどうですか!!!

307	首都高速の建て替えから何を学ぶ??
No.50	2012年11月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 首都高速道路の更新問題を知る。
- 数十年先のことは考えない咎めを知る。
- 情報システムでも同じことが起きていることを知る。
- モノを作るときに、保守や更新のことを考えて作るべきことを知る。
- 両者について、あるべき建て替え・更新方法を考える。

ねらい：

- 情報システムの「順次再構築」方式を研究いただく。
- 「順次再構築」方式を実現していただく。

首都高速道路の建て替えが問題になっています。1962年から開通が始まった首都高速道路は、総延長301キロのうち40年以上経過した部分が3割あり、劣化が進んでいるのです。

コンクリートの寿命は70年らしいのですが、高速道路のように荷重が大きなトラックが高速で走れば、40年でも寿命になるようです。

首都高速道路会社の調査研究委員会では建て替え（大規模更新）や大規模補修の選択条件や工事の実施方法を検討しています。

一方、国土交通省の有識者会議では、一部分ですが地下化を提言しています（9/19）。

前者の委員会は、発想の原点が今の道路の更新となっていて、検討の選択肢が限られています。こちらは、12月に答申案が出る予定です。

建て替えはたいへんです。同じ場所で建て替えるのなら、長期間交通止めにならなければなりません。

地下化の利点は現在の交通と関係なしに工事ができる点と都心部の景観の改善です。ただし、コストは何割増しのようです。

先日、大学の運動部同期OB会で、日本橋川クルーズと称するツアーに参加してきました。渡し船程度の船で、日本橋川から隅田川に少し出るあたりを1時間半ほど乗るのです。

ところが、そのコースの大半が高速道路の下です。日が差さないし非常に目ざわりです。

東京オリンピックの時に、用地買収その他間に合わないということで、川の上に乗ってしまったようです。

他国では、首都の中にこのような高速道を作っている例はないそうです。早急に地下化か廃止をすべきと思いました。

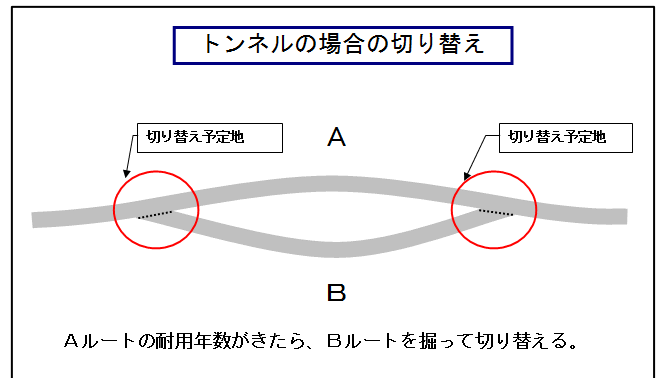
次は、地下に掘るにしても、その次の更新期にどうするかを考えておく必要があります。50年先のことは、またその時に考えればよい、では無責任でしょう。

そもそも、今の高速道路を初めに作ったときに、50年先にどうするかを考えて作っていないようです。

しかし、これから作るものは、次の更新がやりやすい方法をとるべきです。

地下なら、別の穴を掘るのでしょうか。別の穴ができれば前の穴は潰すのです。

穴だって、一挙に短期間で掘れるわけではないので、少しずつ既存のトンネルに繋いでいけるような継ぎ手部分をあらかじめ用意しておく必要があります。



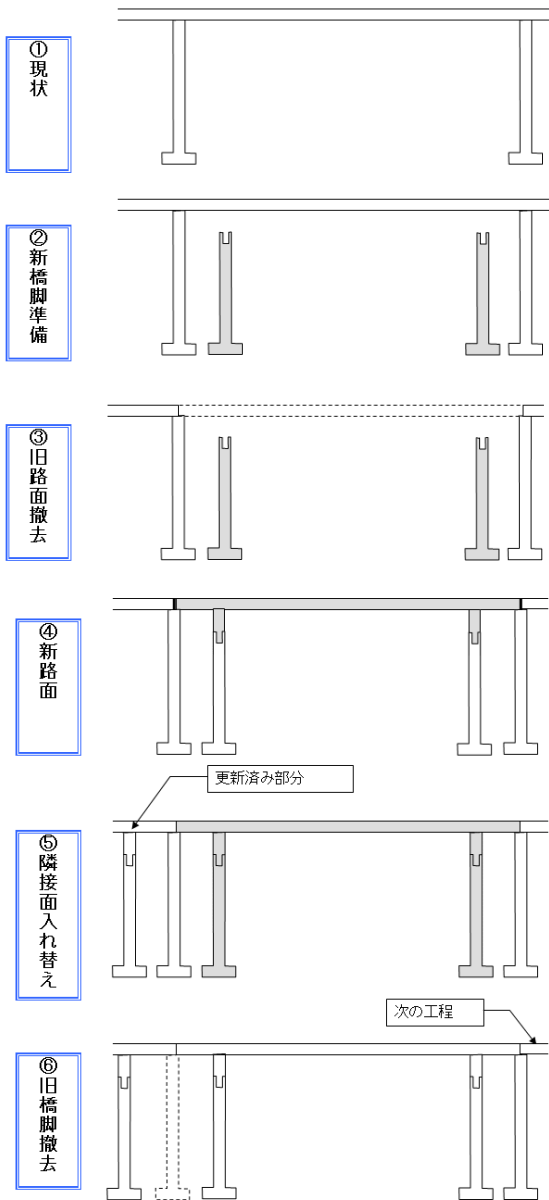
それができるようなコースレイアウトにしておくことも必要です。そのために、多少カーブが多くて走りにくくなくてもやむを得ないと考えなければなりません。（専門家はそのくらいのことは考えているのでしょうか？）

以下も素人の上野案です。

地上の高架なら、10メートルくらいのコンポーネントを作り、これを既存道路の撤去する部分に置き替えて、既存道路に繋げていけるような方式を開発します。

10メートルくらいのコンポーネントは、どこかで作成して、超大型クレーンで吊り上げてセットします。この方法だと、交通止めはごく僅かの期間で済みます。

高架橋部分の順次更新イメージ



そのための大型クレーンは特注で作っても引き合うでしょう。
そのくらいの気持ちで取り組むべきですね。

そういう方法をとる、ということが決まれば、
専門家なら、もっと良い案を考えられるでしょう。
ノーベル賞と同じでアイデアを出すことが重要です。

情報システムのソフトウェアについてもまったく同じようなことが言えます。

情報システムの場合、法人の基本業務用のシステムは平均14年使っています。

その結果、初期開発とその後の改修（保守）の比率は1対4になっています。
改修（保守）のコストの方が高いのです。

多くの企業の現在のシステムは、10数年前くらいから、レガシーと言われる古いホストコンピュータのシステムからクライアントサーバシステムやWebのシステムに更新しました。

多くのシステムは、そろそろ更新の時期が来ているのですが、全面更新ができません。

その理由は、一挙に多額の投資ができないのと、長年の改修で複雑になっているシステムを問題なく更新する自信がないからです。

更新を先延ばしにしているために、予想外の障害が起きたり、改修に手間暇がかかったりする負担を続けているのです。

そこで、一挙に作り直すのではなく、少しずつ作り直す「順次再構築」方式に期待が集まっています。

（「順次再構築」という言い方は、上野の言葉ですが、ほぼ同じコンセプトは、他の方も主張しています）

「順次再構築」方式は、こういう方法です。
まず、再構築対象となる全体のシステムを机上で小さい単位（コンポーネント）の組立て構成に設計します。

その上で、そのコンポーネントを一つずつ、順番に作り替えて、作り替えた新しい部分を古い部分に繋げていきます。
この方式は、継ぎ手の部分を両端に作らなければならないので、一気に通しで作成するよりも、余計な開発が必要です。

しかし、一旦でき上がった後は、何らかの理由で変更したいこと（改修）が発生した場合は、その部分だけを検討すればよく、全体への影響を見る必要はありません。

このための技術は（MDMやSOAなど）、別の目的ででき上がっていますので、その技術を使用すれば、このコンポーネント入れ替え方式は実現可能です。

要約すると、こうなります。開発の際には、一気に通しで作った方が、工数が少なく安くできます。

コンポーネント継ぎ手方式は、改修の際に、全体への影響が少なく、多くの場合、そのコンポーネント部分だけを見ればよいので、効率的で、かつ間違いが起きません。

また、何らかの理由で、ある部分を交換したい場合も容易に可能です。

先に述べましたように、今や改修の工数・コストの方が4倍も大きいのですから改修がやりやすい構造の方が、ライフサイクルコストはるかに安くなります。

しかし、これまでは、後で発生する改修のことを考慮しないで、開発の際に都合のよいように設計しています。

こんな全体観のない方法がまかり通っているのです。

この状況は日本だけでなく、欧米でも同じことのようにです。米国IEEEが刊行しているSWEBOK（ソフトウェアエンジニアリングの基礎知識体系）の第3版（今年刊行予定）でも、開発の際に、保守（Maintenance）のことを考慮しない問題点が指摘されています。

今後は、次の改修や作り替え（再構築）がやりやすい方法で開発しましょう！！

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 上野則男のメルマガ（ブログ）の実績をご紹介します。
- どんなテーマが受けているのかを知っていただきます。

ねらい：

- あらためて当メルマガ（ブログ）に関心を持っていただければ幸いです。

上野則男のメルマガを始めて満4年経過いたしました。ブログ化してからでも2年半です。もっと前からやっていたような気がします。

積極的に続けてこられましたのは、皆様の励ましです。「見ています」というお言葉はたいへん嬉しいものです。

今後とも応援いただけますように、切にお願い申し上げます。

月刊のメルマガは今月が50号です。これを機会に実績をあらためて見ました。

50号とかも忘れていた私に、この機会を作ってくれましたのは、私のアシスタント近藤千穂です。あらためて感謝します。

◆作成期間

2008年10月～2012年11月
 ブログとしては2010年5月から

◆作成タイトル数

308件
 ブログとしては244件

◆作成ページ数（A4 1,500文字換算）

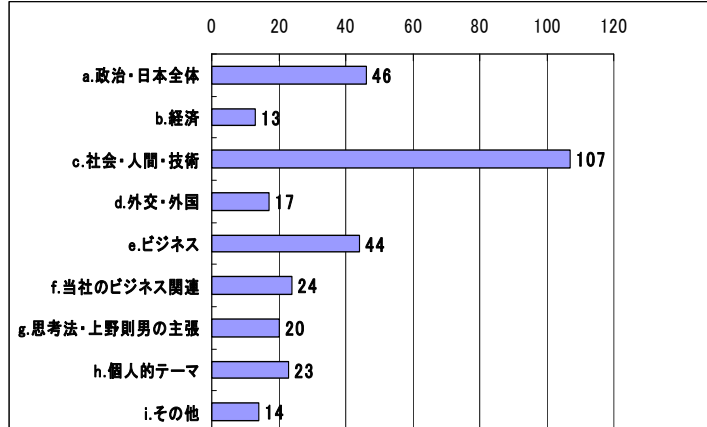
約300ページ
 優に図書2冊分の量があります。

◆作成文字数

約50万字

◆作成分野別件数

以下のグラフのとおりです。
 私の関心の度合いを示しているようです。
 社会・人間・技術領域がダントツです。
 「社会評論家を目指しているのか」と言われます。
 当社のビジネス関連は、遠慮して？あまり多くありません。



◆作成分野の代表的テーマとご覧いただいた件数以下のとおりです。
 件数はブログへのアクセス件数で、メルマガ上でご覧いただいている件数は含んでいません。

この期間の最大の関心事は、やはり福島原発でした。当ブログでも、1位、2位を占めています。これを見ていると、皆様の関心事がよく分かります。

2桁の少数アクセス件数の分は今月の公開分です。

政治・日本全体

「共通番号制度に誰が反対するのか」…………… 829
 「鳩山由紀夫の罪、万死に値する」…………… 558
 「なぜアメリカは対日戦争をしかけたのか」…… 274

経済

「消費増税議論の是非」…………… 432
 「日本経済立ち直りの鍵
 介護事業経営者の育成方法」…………… 142

社会・人間・技術

「福島原発の状況、これが本当」…………… 2,004
 「低放射線量は有益である」という証明…………… 901
 「1分仮眠法」って本当ですか？…………… 413
 「生活保護問題について考える」…………… 334
 「公園に犬を入れないでください」は
 どうなったか？…………… 52

外交・外国

「中国人はなぜ平気でウソをつくのか」…………… 434
 「尖閣諸島が日本領であることを示す
 これだけの証拠がある」…………… 322
 「インドはなぜオリンピックが弱いのか」…………… 175

ビジネス

「システム障害はなぜ2度起きたか」…………… 575
 「日本ではなぜ、ビジネスインフラを
 整備しないのか？」…………… 18

当社のビジネス関連

「ソフトウェア保守の10年後？？」…………… 404
 「大発明!?保守工数の新見積り方法」…………… 350
 「首都高速の建て替えから何を学ぶ？」…………… 17

思考法・上野則男の主張

「幼稚園時代から競争心を！！」…………… (ブログ以前)
 「アメリカの目的思考、合目的主義」…………… 270

個人的テーマ

「苦節13年 プロジェクトマネージャ試験に
 合格しました！」…………… 432
 「私の趣味 銀杏採りのご紹介」…………… 260
 「キャンディーズのすーちゃんが亡くなりました」… 174
 「09111周年」(孫娘の誕生日)…………… 128
 「我が家の前に立派な公園ができました」…………… 114
 「赤血球の連銭の生成要因
 の共同研究者を募集しています」…………… 89

その他

「禿頭は男性的？」…………… 414
 「ゴールドラット博士の死を悼む」…………… 143
 「東京都の温泉？」…………… 39